
ONEPIECE the FILM 幻の物語（イリュージョンストーリー）

ジュリア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ONE PIECE the FILM
幻の物語 イリュージョンストーリー

【Nコード】

N2263Q

【作者名】

ジュリア

【あらすじ】

海賊王を目指し偉大なる航路を航海しているルフィ達。
グランドライン

ある日、ほのぼのと航海をしていると突然、船が止まってしまい、更には嵐が近づいているという……。やむを得ず近くにあった島に上陸する。

しかし、そこは常識が通用しない、ちよつと変わった島だった!?

楽しいひと時（前書き）

今のワンピースを知らない方は、あまり話の内容がついていけない場合があります。

楽しいひと時

ある日、いつものように偉大なる航路〈グランドライン〉をルフィ達一行はほのぼのと船の中ですごしていた。

これから、恐怖が襲い掛かってくるかも知らずに…。

——サウザンドサニー号^{いけす}生簀前——

ルフィ「うひょー！ やっぱりすげえな、サニー号は！」（釣り中）

ウソップ「…よし！ 大物がつれたぞ！ 俺の計算どおおおおり！」

チョッパー「ウソップすげえー！ おれにも釣りの仕方教えてくれー！」

——トレーニング室——

ゾロ「おれは…まだまだ弱い…！ もっと…鍛えねえとな…。」

——兵器開発室——

フランキー「次はどんなシステムを作るかなあ…。おつ、閃いたぞ！ 今週のおれもスーパ―についてるぜ！ んんんんん…スウウパアアアアア！」

——アクアリウムバー（生簀、水族館）——

サンジ「ナミすわ〜ん！ ロビンちゅわ〜ん！ デザートをもってきたよー！」

ナミ「ありがとう、サンジ君！」

ロビン「ありがとう、コックさん…。あら、また水槽に魚が入ってきたわね。」

サンジ「今日も調子がいいらしいな、あいつら。」

ブルック「ヨホホホ！ 今日の夜御飯が楽しみですね〜。」
数分後——。

がこんつつつ！！

「「えっ?」」

急に船が止まった。

すべての始まり

「何？」

「何だ？」

「あれ？」

「どうした？」（みんな口々にいった）

「――甲板にみんな集まる――」

ナミ「船が止まってる……」

ルフィ「何だ？故障か？」

フランキー「おいおい！この船に故障なんてありえねえぜ！！ちょっとエネルギールーム見てくる！」

「――トレーニング室――」

ゾロ「おい！どつか島にでも着いたか？」

サンジ「てめえは黙っとけ！！クソマリモ！！！」

ゾロ「あ！？もう一回言ってみろ！！！」

ナミ「まあまあ二人とも……」

（数分後）

フランキー「エネルギールームに異常はなかったぜ！コーラも足りてるし……ほらみろ！この船に故障なんてありえないんだ！！」

ナミ「じゃあどうしてよ……」

（みんなしばらく考える……）

チョッパー「このまま止まったままだと、どうなるんだ？」

サンジ「そりゃあ決まってるだろ！ここでこのまま何日か過ごすことになる……」

ロビン「周りに島なんてないし、動くのは危険ね……」

ナミ「……あつ！この気圧……まずいわ！嵐が来る！ここにいろのはやばいわ！どこかに逃げるわよ！」

ウソップ「逃げるってどこにだよ」

ナミ「分からないけど……とにかくウソップ！周りに何かないか調

べて！島とか・何でもいいから！

チョッパ―は帆をたたんで！ゾロ〜〜！展望台＞そこから周りを調べて！」

ルフィ「進路は？」

ナミ「4時の方角よ！！」

「よし」

ナミ「だめだ！嵐の方が早い！どうしよう・・・。」

ウソップ「・・・おっ？ナミ〜〜！島が見えてきたぞ！！」

ナミ「本当？（その島を見る）止むを得ない！あの島に上陸しましょう！そこまでいける？」

フランキー「なんとかいけそうだ！」

ルフィ「よし！野郎ども〜〜！いくぞ〜〜！！」

「「「おおおおおー！！」」」

出会い?

島についた。(みんな地上に降りた。)

ルフィ「うひょ～～何だ?この島、おんもしろそー!」

ナミ「何?ここ?」

(あたり一面、木々が生えている。)

ウソップ「ジャングルか?」

ロビン「この木???。全て人の手によって植えられているわ!」

フランキー「だめだ!船が全く動かなくなっちゃった???。」

チョッパー「え～～!じゃあ、今日はここで過ごすのか?」

ゾロ「今日だけじゃないぜ。」

サンジ「船が動かなければ、ずううううとだ!」

チョッパー「え～～!おれヤダよ!!こんな島、いたくねえー!」

←

ガサゴソ(草むらが揺れる)

ウソップ「ひっ!!なっ??なんだ?今の音?」

「「え?」」(みんな揺れた草むらを見た)

チョッパー「イヤ～～!!」

?「キャアアアー!!」

謎多き女の子現る!?

? 「キャアアア!」

「「ウワァー!!!」」 (ルフィ達全員)

ウソップ「なんだ!? 敵か! 敵か? 敵か!?!」

チョッパー「見逃してくれ〜! おれは、まだ死にたくねえ〜!」
ルフィ「ゴムゴムの〜」

(麦わらの一味パニック中〜)

? 「待って! わっ……私は敵じゃないわよ!? 殺さないで〜!! 私
?? ジュリアっていうの!!! 今ここで食料調達をしたの! ごめん
なさい驚かしてしまつて……それで、君達は?」

ルフィ「あっ! おれルフィ! よろしく!」

ウソップ「おれ様は、ウソップだ! 8千人の部下がいるんだぞ! ガ
ア〜ハハハ!」

ジュリア「へえ〜! すご〜い!!」

チョッパー「おれは、トニートニーチョッパーだ! よろしくな!」

ジュリア「え!? かわい〜い!」

チョッパー「可愛いかいっても嬉しくねえ〜ぞコノヤロが!」

ブルック「ヨホホホ! 実に美しい! ん〜ビューティフォー! と
ころでジュリアさん! あの〜パンツ??? 見せてもらってもよろし
いですか?」

ジュリア「キャーアア! ガイコツ!?!」

ドカ バキ ベキ ボキ……

ナミ「やめんか!! セクハラ!!」

ブルック「これは、また手〜厳し〜い」

サンジ「おい! ブルック! てめえ〜ジュリアちゃんを怖がらせてど
うする!! あっ! おれはサンジ! それでこっちは、ナミさん。」

ジュリア「よろしく! そっ……それでどうしたの?」

フランキー「船が急におかしくなっちゃつてよく! ……壊れてはい

ねえ〜んだぞ!」

ナミ(壊れているって認めればいいのに!) 小声

ルフィ(うんうん! そりゃあ最もだ!) 小声

フランキー「ん? そこ! 何か言ったか?」

ギクッ!!

「「イヤ: 別に? ? ? ?」」

フランキー「? ? ? ? そうか!」

ジュリア「えっ! ってことは、大変じゃない!? 船が治るまでこの島にいていいよ!」

ルフィ「ありがとう!! おめえ〜いいやつだな〜」

ジュリア「いや〜そんなことないよ! あっ! もしよかったら、私の町へこない? でも来るからには、この町のルールを守ってもらうけどね!」

「「ルール? ?」」 (ルフィ達全員)

ジュリア「そう! ルール! 町に行くというのなら町の入口へ行ってから話すわ! どうする?」

ルフィ「はい! おれ行く! すぐ行く!」

ナミ「ちよつと! ルフィ! : 待って!」

ルフィ「んあ? 何でだよ! ? すぐに行くんだ!」

ナミ「だから待ってって! あの〜ジュリアちゃん? 町? ? っていうたわよね〜? どこに、町があるの? こんなジャングルの中に?」

ジュリア「? ? ? ? 町はねえ〜このジャングルをずーっとまっすぐ進んでいくと、地下へ通じる階段があるの! そこを降りたら、私の町よ!」

ルフィ「なあ〜? 行こう! 船はそこら辺に、隠しておいて!」

フランキー「待て! 今日、おれは船を調べたいんだ! 行くのは明日にしてくれね〜か?」

ウソップ「あっ! おれも手伝うぜ! フランキー!」

チョッパー「じゃあ! おれも! おれも!」

ルフィ「え〜! でも行きて〜よ! ジュリアの町!」

サンジ「単独行動は、つつしめ！ルフィ！行くときは、みんな一緒だ！」

ルフィ「でもすぐ行きて〜！」

ナミ「もー！我慢しなさいよ！」

ロビン「じゃあ！明日、行きましょ？」

フランキー「今日は船の点検が先だ！」

ウソップ「賛成！あつ！でもここに、船をとめてても大丈夫か？」

ジュリア「あ！それは、問題ないと思うよ！」

ナミ「じゃあ！そのルールって言うのは明日聞かせてもらおうわ！今日は私達、船の中で過ごすから！ねえ？どう？」

ルフィ「賛成！文句なしだ！ジュリアもいいか？」

（みんなも納得）

ジュリア「????????????????????（思い詰めた顔）」

ナミ「ジュリア？どうかした？」

ルフィ「ジュリア？」

ジュリア「あつ！ごめんなさい！明日の朝ね！私、友達をつれてくるね！みんなが町にいる間、この船の守り役として、私の友達が責任を持って管理するわ！」

ルフィ「いろいろありがとうな！頼む！」

ジュリア「それじゃあ明日ね！バイバイ」「バイバーイ明日ね！」

「ルフィ達一行

森の奥深くへ行ったジュリアは……

ジュリア「ウフフフ！何も知らないで、のんきなやつらね！ウフフ（にやける）」

いった。

←ジュリアが去って

森の中は、静まり返って草木の揺れる音がまるで、麦わら海賊団を招き入れようとしているかのように感じた。

夜のひととき（前書き）

皆さん！こんにちは！ジュリアです。

私のつまらない小説を見ていただき、ありがとうございます。今回は最後に、おまけとして麦わらのルフィとジュリアのお話をいれています。つまらないことを覚悟して心のひろい人はぜひ！読んでみてください！

夜のひととき

その夜

ルフィ達は、食事を終えていた。

ルフィ「ぶはあゝゝ！食った！食ったゝゝ！ゲフ！もう、食えねえゝゝ！」

「おれも！おれも！満足だ！」

ブルック「こんなに美味しい料理を毎日たらふくたべられるなんて
〜！私、なんて幸せなんでしょう！ヨホホホホホホ！」

「ナニ?」

ウソップ「おい！サンジッ！今日のデザートは何だ？」

ルフィ「あっ！ウソップ！ずるい！おれも！」

「おれも！サンジィ！大盛りで頼む！」

サンジ「おめえくら、今もう食えねえくらとか何とか、いったたじゃねえか！」

「デザートは別腹だ！」

「そうだ！そうだ！」

ナミ「.....」
「.....」。

「ゾロ………ナミを見てる………」

「……?」

ロビン 「どうしたの？ ナミ？」

「おっ？」
（みんなナミを注目する）

サンジ「どうしたの？ ナミさくらん？」

ゾロ「くそコックの料理がまずかったんじゃねえか？」

サンジ「あ!？もう一回いってみろ!!」

ゾロ「あゝ何度でもいつてやる！くそコツクの料理がまずかったんじゃないかねえか？」

サンジ「てめえ！あつ！でもナミさん？……？……？……？……？……？……？……？……？……？……？」

当にまずかった？まずかったならいつてくれても……？」

ナミ「あっ！違うの！……（しばらく黙りこむ）実は、今日会ったジュリアのことがちよつと気になって……」

フランキー「美人だったことか？」

ナミ「まゝそれもあるけど……って、違うわ！！なんか変な感じがしただけ！」

ルフィ「変？そうか？」

チョッパー「おれも変な感じは、しなかったぞ！」

ナミ「あんた達が、にぶいのかもしれないし、私の勘違いかもしれないし……」

ルフィ「きつとナミの勘違いだろ！」

ナミ「でも……」

ウソップ「おい！まだ何かあるのかよ！おまえの勘違いだよ！絶対！」

ナミ「うん……でもあんな森の中で食料調達って……本当にそうかしら？……やっぱり変よ！ジュリア以外、周りにだれも人がいなかったし……都合がよすぎる！」

フランキー「考えすぎだろ！」

ナミ「そうかなー？でも、やっぱり……」

ウソップ「おい！話を広げるなよ！それは全部ナミの気のせいだ！もうこの話はやめだ！」

ロビン「明日会ってみれば、分かるわ！」

ナミ「そうね！ごめんなさい！」

夜のひととき(後書き)

おまけ！(※つまらなそうだったら無理して見ないでください！※)

←

ジュリア「ねえー！ルフィ！聞いて！聞いて！私、学校の行事で3月6日(日曜日)に嵐を上げたんだよ！……あっ！でもうちのクラスの嵐はダメになっちゃったんだけどね？？」

ルフィ「えっ！タコ！？いいな！おれもいきたかったなー！嵐にあおがれて？？？いいなーおれも上げたかった！」

ジュリア「ルフィってそんなに嵐、好きだった？」

ルフィ「当たり前だ！タコは、いいぞ！」

ジュリア「私達の嵐さー始めは、いい感じだったんだけど、だんだん周りの人達に迷惑をかけちゃってー！」

ルフィ「そのタコはどこからもらったんだ！？」

ジュリア「もらってないよ！いちから自分達で作ったんだよ！？」

？？嵐！」

ルフィ「へえーいいなー！いちから自分達で作ったなんて？？そりゃあ、いいタコだったんだな！」

ジュリア「うん！いやールフィとこんなに、嵐あげで盛り上がるなんて 思ってもいなかった！」

ルフィ「まあーでも、おれは、タコあげより、たこ焼きのほうがいいけどな！」

ジュリア「アハハハ？？？え？今？？？たこあげより、たこ焼きがいいって？？？まつまさか？？！？」

ルフィ「タコの話のしたら、腹減ってきたなーサンジィーめしいー！」

ー！(ご飯)」

ジュリア「はあー！ルフィがまともな話をするわけなかったんだ！たこが違ってるとー！！」

←
おしまい
(どうでしたか?)
(

出発！謎の少女の町へ？？？（前書き）

こんにちは。ジュリアです。

今回は、ゾロの方向オンチの話に注目してみてください！

出発！謎の少女の町へ????

そして一夜が明けた。

——一朝——

サウザントサニー号の前

ジュリア「お〜い！ルフィ〜！みんな〜！来たよ〜！」

ルフィ「?????あっ！ジュリア〜！待ってたぞ！」

ウソップ「今、そこに行くぞ！」

チョッパー「お〜い！アハハハ」

サンジ「ジュリアちゅわ〜ん！」

ナミ「????????。」

←全員船からおりた

ジュリア「それで?????その?????船のほうは?????どう？」

（ルフィ達は首をふる）

ジュリア「?????そっか。?????それじゃあ私達の町にくるんだよね？」

ルフィ「そのつもりだ！な？」

「うん！」

フランキー「でも船はどうすればいいんだ？」

ジュリア「大丈夫！見守り役を2人、つれてきたから！」

「見守り役!？」

ジュリア「そう!???ほら 出てきて」

すると森の茂みからジュリアと同じくらいの女の子が2人出てきた。
ジュリア「私の友達なの！えっと右は、リリア！左はリズム！」

リリア「よろしく♪」

リズム「どうも。」

ルフィ「よろしく！サニー号のこと頼んだぞ！」

リリア「任せて！」

リズム「了解！」

フランキー「おい！ジュリア、こいつら信用していいのか？それに見守り役？」

ジュリア「あゝ大丈夫！心配しないで！ただ船の周りにいて見守るだけだから！人様のものを触ったり壊したりしないよ！ね？ね！ね！？」

リリア「うん！もちろん！」

リズム「安心して！」

ルフィ「んじゃ、2人とも！俺達が戻ってくるまでよろしく！」

リリア「行ってらっしゃーい！」

リズム「きをつけてー！」

ジュリア「それじゃあ、出発！」

ルフィ「いざ！ジュリアの町へー！」

「「おぉー！」」

←森の中をどんどん進んでいく。

ジュリア「迷子にならないようにね！????????あっ！でも、普通に私の後ろについてこれば大丈夫だから????フフフそんなこといわなくてもいいか！」

サンジ「いや。いわれても迷子になるやつがいるぜ！」（ゾロを指差す）

ジュリア「え？」

チョッパー「うんうん。」（ゾロを見る）

ウソップ「ジーーーーー（ゾロを見つめる）」

ゾロ「?????こっちを見るな！」

ジュリア「え？ゾロ、迷子になるの？」

ブルック「あっ！そうだったんですか！」

フランキー「ああ。わざとかと思うくらいな！」

ゾロ「うるせえー！」

ジュリア「へえええ（ゾロを見つめる）」

ゾロ「だから！みんなしてこっちを見るなー！」

「アハハハハハハハ」

ジュリア「アハハ。ごめんなさい!?!?!でも本当に大丈夫だよ!どんなに方向オンチでもこの森をずーっとまっすぐいけばいいだけだから!」

サンジ「それでも迷うん??!?!?!?!」

ゾロ「うるせえ!いい加減にしねえと斬るぞ!!クソコック!!」

サンジ「ああ。いつでもこい!相手になってやる!クソマリモ!!」

ロビン「また後にしたら?」

チョッパー「そうだぞ!じゃあ、俺がゾロの手をつないでいってあげるぞ?」

ゾロ「だから、おかまいなく!」

「アハハハハハ」

ジュリア「ウフフフ。あつ!こんなこと話している間についたよ!町の入り口へ!」

するとそこには、大きな階段が下へと続いていた。

ルフィ「うひょろろろろ☆★☆☆この階段をおりればいいのか?」

ジュリア「そうだけど?ちよっと待ったろ!!」

「え?」

ジュリア「早く行きたい気持ちも分かるけどその前にルールの説明です。」

ルフィ「そういえばそうだったな。ジュリア!早くルールを言ってくれ!!」

ジュリア「はい!では1つ目から言います。1つ目は?」

出発！謎の少女の町へ？？？（後書き）

最後まで読んでくださってありがとうございます。次回にもご期待ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2263q/>

ONEPIECE the FILM 幻の物語（イリュージョンストーリー）

2011年4月7日23時26分発行